



京都 YWCA

5 2021



古都に咲いて100年

古都に咲かせよう！ユースによるユースのための活動始動！！

～地域 YWCA としてユースエンパワメントに取り組んだ 4 年間～



YWCA が 100 以上の国と地域に広がる国際 NGO であることはご存知でしょうか。日本国内には 24 の地域 YWCA があり、京都 YWCA もその一つとして日本 YWCA に加盟しています。

2017～2020 年度、日本 YWCA は地域 YWCA のネットワーク強化と活性化を支援すべく「Local Action」（以降 LA と記載）を実施し、京都 YWCA は大阪、神戸、名古屋の各地域 YWCA とともに、会員のリーダーシップ養成を会員自らが検討することを目的とする「パワーアップ計画」を展開しました。

若い人がいない？

会員のリーダーシップ養成を考える時、「組織」と「人」の在り方、次世代への継承という視点が欠かせません。LA 参加の各地域 YWCA の共通課題として、①会員活動を統括する運営委員のスキルアップ、②会員の組織理解促進、③ユース育成、この 3 点が出てきました。課題洗い出しの過程で、「若い人がいない！」という声が聞かれたのですが、「本当に？」「そもそもユースってだれのこと？」というところから、各地域 YWCA で意識調査と現状を把握する取り組みを始めました。

「育成対象」から 相互にエンパワメントされる「協働者」へ

ミッション推進活動部門（会員活動）の運営委員会で改めて活動現場にいる「人」を眺めると、若い人がいないわけではないことがわかりました。しかし、関わっている活動現場での受けとめにとどまり、各部のユース同士を「つなぐ」働きは少なく、ユースは「同世代の仲間」と出会うことが難しい状況にありました。

その気づきに加え、ユースの声に耳を傾けつつ YWCA の本質を考える過程で、YWCA 運動はユースを含めた関わるすべての人の協働によりつくりられ、また推進されるものであるという認識にシフトしてきたように思います。多様性のある人間関係の中での協働には、すべての人にとって現場が安心できる場所＝セーフスペースであることが欠かせません。各地域 YWCA は組織としての枠組みも活動内容も異なりますが、この点はゆるぎなく共通するもの、いわば若い女性を応援する組織である YWCA のアイデンティティとも言えるでしょう。

ユースによるユースのための活動始動

京都 YWCA では LA 参加直後より運営委員会内に「ユースエンパワメントチーム」をつくり毎年新メンバーを加えて取り組みを行ってきました。

LA 第 1 期は近隣中・高等学校 YWCA のオリエンテーショ

ンの実施、京都 YWCA の集会への各校顧問招請、世界 YWCA 総会へのユース派遣、ユースの異業種交流会、年少会員の再設定など、ユースを受けとめる土壌づくり、第 2 期はユースの運営委員が中心となり、当紙でも紹介した「Rise UP」勉強会とその実践の場である近隣中・高等学校 YWCA への出前ワークショップが活発化しました。更にコロナ禍が追い風となり、オンライン活用での「夜かふえ（ユースのしゃべり場）」や台北 YWCA と全国のユースをつなぐ企画など、4 年前には想像もつかなかったユースの活動が行われています。

そして、今年度「ユース委員会」が立ち上がりました。京都 YWCA にユースが定着できるような新しい活動方法を模索し、委員会がそれぞれのユースの居場所となることを目指します。ユースが安心してトライ・アンド・エラーを繰り返しながら学ぶ姿を、ミドル・シニア世代が見守り、励まし、伴走することで、100 周年のその先も京都 YWCA には「多世代・多文化ふれあいコミュニティ」という「花」が咲くことでしょう。

（別所加恵）



平安女学院中・高等学校 YWCA での出前ワークショップ

4 市 YWCA 合同
One Day ミーティングで、ユースの
セーフスペース事業
を語る



2021年度ミッション推進活動運営委員会 会長 新年度ごあいさつ

あじさい保育園の入園式「出合いを喜び会」から2021年度が始まりました。開園2年目となる今年度も園児たちの健やかな成長を見守っていききたいと思います。保育園では、昨年からの親子支援活動委員会による、親と子のリズム遊び（0～1歳）と親子ライブラリー（園児対象の読み語り）、そして、「地域子育てステーション」としても、月1回ライブラリーの開室をしています。

運営委員会は会員活動の統括部門として活動推進を行う部署ですが、今年度は「ユース委員会」が新たに加わり、5つの委員会で活動することになりました。ユース委員会は昨年度から行ってきた「(中高YWCA) 出前ワークショップ」「台北YWCA ユースダイアログ」など4つのプログラムを継続し、ユースのエンパワメントを運営委員会全体で支えていきます。

また、2023年に京都YWCA創立100周年を迎えるにあたり、昨年度100周年記念実行委員会が立ち上がり、本格的に動き始めました。「記念誌」「イベント」「式典」「募金」の4チームがそれぞれ

企画、準備を進めています。

ふれあいの「居場所」事業部委員会は、昨年度再編成後、居場所づくりをさらに検討し、どれもが安心できるセーフスペースであること、京都YWCAの「多世代・多文化ふれあいコミュニティ」がより充実した形になるよう前向きに取り組んでいきます。

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため委員会活動にZoomが取り入れられ、オンラインでのミーティングが普通になり、マスク着用、検温、部屋の消毒が常態化しました。引き続き、コロナの状況に合わせての委員会活動を行っていくことになります。

今年度、会長という役割を担うことになり、戸惑い、緊張していますが、仲間のパワーを感じながら、ともに助け合い、精いっぱいこの1年間歩んでいきたいと思っています。

(一色光世)



コロナ禍で思うこと

～「にほんご教室洛楽」の現場から～



この1年はコロナに翻弄されて、季節の移り変わりも色あせてしまいましたが、あっという間に、また緑まぶしい春が巡ってきました。

にほんご教室洛楽では去年5月から、2カ月ほど休講の後、不安なまま授業が再開されました。今年1月に2回目の緊急事態宣言が出されたときは、休講にするか、オンラインにするか各講師に委ねられました。私は迷いましたが、今後のことも考えてZoom授業の準備することにしました。とは言ってもZoom会議に参加することしかしていなかったため、どのような授業のやり方があるのか、仲間に聞いたり自分で調べたりと、パソコン漬けの日々が続きました。ちょうどその頃、日本語教室のネットワーク「京都日本語 Rings」が「Zoom 研究会」を立ち上げてくださり、京都府内の各グループから15人ほどがZoomについて学びました。そのお陰で、私の担当する受講者さんの中にはZoomが初めての人もいて、緊張のスタートでしたが、回を重ねるごとにだんだんと慣れてきました。

オンライン授業は、時間の節約、資料のペーパーレス化、ネットサーフィンなどの良さがあつたり、またボランティア同士の交流手段として、他のエリアの人達と、現状や悩みを共有することができます。Zoom 研究会で教えていただいたことは、私にとってはコロナ禍での大きな収穫でした。

しかし、2回目の緊急事態宣言解除後の3月末は対面授業に戻っています。受講者さんが画面の中というのは時として歯がゆさを感じます。ちょっとした様子を見て対応したり、思わぬ雑談の掛け合いで、場が盛り上がりたりするのは対面の良さです。また20km以上もの距離を毎週自転車でするCさんはYWCAに来ることは気分転換になるらしく、対面での授業再開にほっとしているようです。

オンラインツールがクローズアップされたこの1年でしたが、今後はそれぞれの良さを生かして、使い分けながらより良い交流や支援ができればいいなと思います。

(にほんご教室洛楽講師 森川和恵)



3.11 から 10 年 「喪失の先に浮かび上がるもの」

朗読「ほんじもよう語り」

2月27日、京都YWCAで井上美和子さんによる「ほんじもよう語り」を平和・環境活動委員会で主催しました。新型コロナウイルスの影響でオンラインからの参加も呼びかけ14名が参加しました。

2011年3月の原発事故で、南相馬から綾部に避難された井上さんは、福島で書いた詩の朗読「ほんじもよう語り」を2019年から公演されています。

浪江町にあった実家を解体することになり、「やっぱり梅の木だけは残したい。家族の節目には梅の木の前で記念写真撮ってきたから」と父親に頼む。すぐに切らない決断をした父親は「年をとると娘の言うこときくもんだ」と、満開になる梅を眺めてつぶやく。今は梅の木が留守番をしてくれているんだと。

夜明け前のかまどに薪がぼーっと光を放ち、ぐつぐつしてる鍋の豆をつまみ、ゆで加減をみる祖母の味噌作り。

そんな穏やかな日常を失ってしまったことがとても悲しくなりました。故郷を思い続けている井上さんの声はとても迫力があり、詩がゆっくりと頭の中で映像となり私たちに語りかけてくれました。

「ほんじもよう語り」のきっかけとなった原発賠償関西訴訟の大阪地方裁判所での陳述文を井上さんが再現してくれました。井上さんの語りが法廷に響いたところ、見たかったな一。

原発事故を忘れない

10年たちましたが原発事故の「原子力緊急事態宣言」は解除されておらず、帰還困難区域が残っており、帰りたくても帰れない方たちはずっと福島の実状を見つめています。

過疎地への原発の立地、請負労働者、ウラン原料の採掘による被曝など、原発が稼働することによって差別の構造をつくりだしています。これからのエネルギーに原発はいりません。

京都に避難してきた知り合いは「当事者は忘れないと前に進めないことがあるけれど、当事者でない人たちは忘れずに前に進んでほしい」と言われました。被災された方の心に寄り添い、ともに前に進んで行きたいと思います。

(松田千治)



シリーズ—— 京都 YWCA 100 年の歩み (2)

1930年代に入り戦時色が濃くなる中、満州事変が勃発し(1931)、世界恐慌で海外のYWCAからの援助も途絶え、外国人幹事も日本を去らざるを得なくなりました。京都YWCAは苦しい財政の中でも募金と多くの方の協力を得て、室町出水の現在の地にあった会館を買取りました(1934)。

1938年に国家総動員法が成立し、YWCAも慰問や勤労奉仕などにかり出され、活動が困難となっていきました。英語の使用が禁止され、キリスト教という理由で特高*が目光らせる中、女子学院も閉校に追い込まれ(1944)、会館を京都府庁に貸す事態に至りました。

広島と長崎への原爆投下を経て敗戦に至り、他市のYWCAの多くが建物を破壊された中、建物が残った京都YWCAはここを足場に戦後の一步を踏み出します。

新憲法下の民法と児童福祉法を活かすべく専門家の協力を得て婦人法律相談所と児童相談所を開設し(1948)、社会のニーズに応えようとしました。この頃、米国から友好の印として送られてきた古着で「服装ショー」を開催し、大当たりしたのもYWCAらしい出来事でした。また、進駐軍の軍人と結婚する日本女性のための「花嫁コース」を開講して、アメリカ文化やキリスト教について学ぶ機会を提

供しました。

YWCAは何をなすべきかを考えた末、西陣の過酷な労働環境で働く女性のための「働く少女のための生活教室」を開始しました(1951)。一方、「もより会」による地域の会員活動や、大阪、神戸、名古屋のYWCAとの交流も活発化し、ホステル事業も再開されました(1953)。社会問題研究委員会が生まれ、近江絹糸争議スト中の女子従業員対象にレクレーション指導などを行いました。

1955年に京都市産業局後援の西陣調査委員会が設立され、京都YWCAはキリスト教関係の諸団体と共に「西陣会」設立に参加しました。それがその後の西陣労働センター建設(1961)につながり、西陣での福祉拠点づくりに貢献しました。

* 特別高等警察の略。反政府的な活動・思想を取り締まる秘密警察



日米服装ショーでの風景
(1950年)

「京都 YWCA100 周年記念募金」 へのご協力をお願い



京都 YWCA は 2023 年に 100 周年を迎えます。

女性の社会的立場が弱かった戦前から、キリスト教を基盤にして女性を支援する事業・活動を推進してまいりました。現在、年齢や文化的背景の異なる人々が出会い、協働する「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業を推進しています。

この歩みをさらに前進させるために、100 周年記念募金を実施いたします。

ご寄付は以下の目的に充てられます。皆さまのご支援をお願い申し上げます。

●担い手育成・次世代育成のために

社会貢献活動を支えていく人材、未来を担う人材を育成します。

●保育環境の向上のために

2020 年 4 月に開園した京都 YWCA あじさい保育園の保育環境を向上させていきます。

●W・M・ヴォーリス設計「サマリア館」の補修のために

1936 年に建設された歴史的価値をもつ木造建物サマリア館を次世代に引き渡していきます。

●歴史を未来に引き継いでいくために

記録資料のアーカイブ化、100 周年記念誌の製作などを行います。

目標額：1,000 万円

募集期間：2021 年 4 月～2024 年 3 月

募金額：個人 1口 3,000 円
団体・企業 1口 10,000 円

郵便振替 01080-9-1566

加入者名 公益財団法人京都 YWCA

京都 YWCA へのその他のご寄付の詳細は事務所に問い合わせさせていただくか、ホームページをご覧ください。

<http://kyoto.ywca.or.jp/support>



ご協力ありがとうございました

2021年2月1日から3月31日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

清水義、岡佑里子

各指定寄付

*未来応援募金

・緊急支援

寺田有古、手島千景、
東山更生保護女性会、
日本キリスト教団伏見教会、
日本キリスト教団平安教会

・ユース育成

弘中奈都子

・保育園備品

安藤いづみ、安藤昌人、浅野献一、
明石好蔵、匿名

*クリスマス献金

宗教法人日本キリスト教団紫野教会

*親・子育て支援活動委員会

寺田有古、室紀子

*多文化共生委員会

御前明美、御前隆、三木みや子、
篠田茜、小寺敬子、織田雪江、
森の子、森川和恵、浅野献一、
坪野えり子、有田孝子、安藤いづみ、
根岸咲子、神門佐千子、張善花、
平野富希、築瀬仁志、一色光世、
富田京子、御前麻里、
筒井奈都子、上村愈巳子、
同志社女子大学宗教部

* APT

安藤いづみ、坂和優、西真季、
村木美都子、大手理絵、仲三郎、土田巨、
同志社中学校、野崎泰子、有田孝子、
北村保子、匿名

*ファンドレイジング委員会

弘中奈都子

*うらかふえ

御前麻里、河野伴子

*自立援助ホーム「カルーナ」

黒木順子、荒垣加津子、富田恵津子、
小寺敬子、山上義人、竹内二三、
伊藤真喜子、寺田有古、近藤八津子、
亀田和代、宮川道子、宮武美知子、
今村武廣、今野玲子、小杉總子、
森の子、竹岡哲朗、中野かおり、
鶴崎祥子、島崎明子、筒井奈都子、
有田孝子、井上摩耶子、
同志社女子大学宗教部、
日本キリスト教団京都丸太町教会シオン会、
日本キリスト教団京都御幸町教会、
下京南更生保護女性会、
匿名



賛助員を募集しています！

京都 YWCA を継続的に支えていただく賛助員を募集しています。
賛助員にはニュースレター、イベント案内などをお送りします。

年間 1口 5,000 円(個人)、10,000 円(法人)

3・4月／理事会報告

- 3月からの京都府緊急事態宣言解除を受けて貸室を再開し、うらかふえではランチの外部からの利用(要予約)を再開。
- 京都 YWCA あじさい保育園：3-5 歳児おわかれデイキャンプ(3/1)、育ちを祝う会(卒園式 3/27)、出会いを喜ぶ会(入園式 4/1)を実施。4/10 まで新入園児は慣らし保育。
- 3/6：第 99 回定期会員集会を開催(オンライン)。
- 100 周年記念関係：ホームページに「創立 100 周年」ページを

設けた。京都 YWCA の歴史をたどるプログラムや記念グッズの検討を進めている。

- 4/17：イースター&世界 YWCA 会員日集会開催(講師：増田琴さん)。
- 2021 年度より保育園事業部委員会の下で親・子育て支援活動委員会等と協力して地域への子育て支援を推進する。
- 各委員会における SNS 活用についてガイドラインを決めた。

K Y O T O Y W C A No.562 2021 年 5 月号(5月1日発行)

発行人：上村愈巳子

発行所：公益財団法人京都 YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電話：(075) 431-0351

FAX：(075) 431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

H P：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：(公財)京都 YWCA

定価：1部 50 円

発行：奇数月 1 日発行